

## 沖縄県立博物館・美術館

### 「海とジュゴンと貝塚人ー貝塚が語る 9000 年のくらしー」

開催期間：2021 年 10 月 15 日（金）～2021 年 12 月 5 日（日）



開催状況写真①（ジュゴン剥製と骨格）



開催状況写真②（貝塚人復顔模型）



付帯事業開催状況写真②（文化講座①）



付帯事業開催状況写真①（文化講座②）

#### 【企画展の内容・目的】

- 沖縄県は全国でも第 3 位となる 354か所の貝塚を擁しており、貝塚から出土する多様な遺物や、古代の豊かな海の幸を展示するとともに、近現代に至る食文化の変遷についても取り上げ、貝塚時代と現代との環境や生活、文化の異同をわかりやすく展示することを目標とした。
- 人類と海との歴史的な関わりについて学び、豊かな海を後世に伝えることの重要性を再認識する場として、文化講座やフィールドツアーを開催した。
- 貝塚時代を身近に感じてもらうため、骨から貝塚人の顔貌を復顔し、CG を活用して当時の豊かな海の環境や、暮らしの様子を貝塚人が直接語りかける映像を製作し、海洋環境の変化をわかりやすく理解できるよう工夫した。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：2021年10月15日（金）～2021年12月5日（日）
- 開催場所：沖縄県立博物館・美術館3F 特別展示室1・2
- 入場者数：3,691人



沖縄県立博物館・美術館の外観



企画展会場入口の写真



第1章 貝塚の謎①（沖縄人類史時計）



第1章 貝塚の謎②（最古の貝塚人）

## 第1章 貝塚の謎

約10000年前から11世紀まで9000年間にわたって続いた貝塚文化を象徴的に示すため、沖縄の人類史を24時間時計であらわした「沖縄人類史時計」を製作したことにより、9000年の長期にわたる貝塚文化の時間幅を視覚的に伝えることができた。また、数千年前の貝塚から出土した貝類等の遺物と現代も作られている「貝塚」を比較しつつ、貝塚ができる理由や利用された貝類の種類、生息環境について紹介し、沖縄の海洋環境の多様性とそれに応じた貝塚の多様性について理解を深めてもらうことができた。



第2章 ウミサチの人類史①  
(人類の進化と食べ物)



第2章 ウミサチの人類史② (ウミガメ)

### 第2章 ウミサチ (海幸) の人類史

本コーナーでは、自らの手で野生の生き物を仕留め、捌き、食していた貝塚時代の食にスポットライトをあて、貝塚時代から現代まで我々の日々の暮らしを支えてきた食の移り変わりについて、時代ごとに遺跡出土品や民俗資料を用いて紹介し、視覚的に理解できるよう工夫した。また、「ウミサチ (海幸)」の象徴としてシュゴンにスポットライトをあて、シュゴンの剥製、骨格と遊泳映像・鳴き声を合わせて展示し、貝塚人にとってシュゴンが身近で日々の生活に関わる重要な食料資源であると同時に、その骨は蝶形骨製品や骨輪などのシンボリックなアイテムの素材としても珍重されていたことを紹介し、シュゴンをはじめとする海の生物に対する興味関心を引き出すことができた。



第3章 貝塚を掘る①



第3章 貝塚を掘る② (むかし掘った貝塚)

### 第3章 貝塚を掘る

貝層剥ぎ取り標本や貝塚の発掘道具、貝塚の発掘風景写真等を展示し、発掘調査の地道な作業の様子や楽しさについて、興味関心を持ってもらえるよう工夫した。また、約100年前に沖縄で最初に発見、発掘された荻堂貝塚や伊波貝塚の出土品を展示し、貝塚が沖縄の海洋文化史を実証する重要な証拠となること、過去からの遺産としての貝塚遺跡や出土品を後世に伝えていくことの重要性について、理解を深めてもらうことができた。



第4章 サイエンスで見る海洋文化史①  
(貝塚から見る環境変化とSDGs)



第4章 サイエンスで見る海洋文化史②

#### 第4章 サイエンスで見る海洋文化史

貝塚から出土する貝や土器片等の科学的分析成果（貝サイズの年代的变化や同位体分析からわかる古気候、胎土分析からわかる海を越えた土器の移動）を展示し、見過ごしてしまいそうな小さな貝や土器片であっても、過去の海洋環境や文化に関する貴重な情報を秘めており、過去を理解するツールとして利用できることを紹介した。また、貝塚人の顔貌を復顔し、CGを活用して当時の豊かな海の環境や、暮らしの様子を貝塚人が直接語りかける映像を製作し、海洋ゴミやゴースト・ギアなど現代の海洋環境を象徴する資料と合わせて効果的に展示することで、海洋環境の変化について強いメッセージ性を発信することができた。

#### 【来館者の声】

○大切な海を、大事に守っていかなければいけないと思いました。太古から自然と共存していたのだから それを伝えていきたいです。

○古来の生活は 自然の一部としての人の営みであったから、極端な環境破壊はなかったのに対し、現在の生活は海をはじめとする 自然の破壊との交換で成り立っていることをあらためて考えさせられた。

○昔は豊かで きれいだった海が、技術の進化により きたなくなることをした。だからこれからは、海の環境を守りたいと思う。

○最後の展示で「海洋環境の過去と現在」はいろいろと感じる事がありました。今さわがれている「軽石」などが どういう海洋環境を変化させるのかも見届ける必要があるのでは

## 2. 関連事業の内容

### ■文化講座1 「沖縄の貝塚と貝類」

【開催日時】2021年10月16日(土) 14:00～16:00

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館3F 講堂

【参加者数】84名

【目標・内容】

- 沖縄の貝塚出土貝類研究の第一人者である千葉県立中央博物館の黒住耐二氏をお招きして、貝塚出土の貝類からわかる古代の人々の生活や文化をはじめ、彼らを取りまいていた環境についても詳しくご講演いただいた。展示物を一見しただけではわからない、コンテキスト情報やストーリーを紹介していただくことで、貝塚と貝類の研究の奥深さについて理解を深めてもらうことを目標として実施した。



会場の様子



質疑の様子

沖縄の貝塚から出土する貝類には、海産、陸産、淡水産の多様な種が含まれており、その中には人為的に集められた種とともに、非人為な群集も含まれている。それらを調査研究することによって、当時の人々の食文化や、道具の素材としての貝類選択について知ることができ、さらに発見される貝種から、当時の海洋や陸域の環境についても明らかにできるなど、貝類研究の奥深さについて学習する機会を提供することができた。会場からの質問も多く寄せられ、貝塚出土の貝類の重要性と貝類研究が明らかにする海洋文化史について、広く周知することができた。

#### 【参加者の声】

- 昔から人間のそばにある海。遊びだけではなく生きる種を得る場所として大切にしていきたいなと思います。後世のためにも自然の残る海を残していかないと と思います。
- 「海」というとテーマが大きすぎて難しいですが、人間が海の生き物と共存していた時代から、破壊していく未来を感じました。乱獲を防ぎ、汚染を防がなければいけないと感じました。
- いろんな場所の貝を知ることができて良かったです。
- 貝から人類の生き様を見る事を知ることができ、新しい発見でした。貝っておもしろい!

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## ■文化講座 2 フィールドツアー

### 「うるま市の貝塚と遺跡をめぐる」

【開催日時】2021年11月20日(土) 13:00～16:00

【開催場所】伊波貝塚、伊波城跡(うるま市)

【参加者数】12名

【目標・内容】

- 沖縄県内でも最多となる44箇所の貝塚を擁するうるま市の文化財担当者・横尾昌樹氏を講師に迎え、古くから代表的な貝塚として知られる伊波貝塚等をめぐるフィールドツアーを開催した。実際に貝塚の現地を訪れ、おびただしい数の貝殻やそこから出土したさまざまな土器、石器、貝製品等の遺物に触れることで、遺跡としての貝塚の重要性を周知することを目標として実施した。



フィールドツアーの様子①



フィールドツアーの様子②

沖縄県には数多くの貝塚が残されているが、その存在は意外と知られていない。本フィールドツアーでは、実際に貝塚の現地に足を運び、専門家の解説を聞くことで、貝塚の状況や現地の地形、沿岸環境の移り変わりについて、体感してもらうことができた。また、貝塚現地や出土品の観察を通して、貝塚が過去の海洋文化史を解明する上で、第一級の歴史資料であることを認識し、その重要性についても理解を深めてもらう機会とすることができた。

### 【参加者の声】

- 埋め立てにより海岸線が失われるのは残念だ。
- 貝塚の貝を実地で見れた。かなり海は近かったことを知った。
- 海と沖縄の歴史について少し興味をもてました。これから学んでいきたいです。展示も行きたいと思います。
- 3500年前から現在まで海でつながっている。

## ■博物館学芸員講座

### 「企画展『海とジュゴンと貝塚人』のみどころ紹介」

【開催日時】2021年11月13日（土） 14:00～16:00

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

【参加者数】40名

【目標・内容】

●企画展のみどころについて、担当学芸員が詳しく解説する講座を開催した。特に、企画展の主要テーマである沖縄の貝塚文化と海洋文化史について、食べものや人口、働き方など、身近な切り口から、貝塚時代と現代とを比較しつつ紹介し、貝塚時代から現代に至る沖縄の海洋文化史の展開について楽しく学ぶことを目標として実施した。



会場の様子①



会場の様子②

沖縄では、かつては食生活の中に魚介類が多く取り入れられていたが、現在では魚介類消費量全国最下位となっていること、貝塚時代以降、人口増加とともに人々の生活や食べ物、働き方が変化してきたこと、特に王国時代から近代にかけての人口爆発に伴って、糸満漁民による活発な漁業活動が展開し、高度な海洋文化が営まれてきたこと、現代では人類の活動が地球環境をおびやかすまでに増大していることなどを紹介した。本講座を通して、日常生活の中では気づき難い伝統的文化の変容・変質や、沖縄特有の海洋文化史について多くの参加者に広く周知することができた。

### 【参加者の声】

- 海がどれほど私たちの生活を支えていたのかがわかった。現代は海をあまり大切にしていないように感じる。だからSDGsなどの活動を理解し、実行しないといけないと思った。
- ライフスタイルの変化から、現代人が海や自然環境への恩恵を忘れつつあると感じました。貝塚人の物を最後まで大切にできる精神等をSDGsとして活かしたいと思いました。
- 海をよごさないように気をつけないといけないこと、また小さな子供達にも伝えないといけないと思った。

## ■体験教室「貝のやじりをつくろう」

【開催日時】2021年11月13日(土) 10:00～11:30

【開催場所】沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

【参加者数】12人

【実施内容・目的】

- 貝塚時代の人々が製作・使用していた真珠母貝製の鏃（やじり）を製作し、当時のモノづくりを追体験するワークショップを開催した。道具の素材としての貝殻の特徴と作業の大変さを通して、貝塚人のモノづくりの実際と、彼らの美意識について理解を深めてもらうことを目標として実施した。



事前説明の様子



作業の様子

日程・作業内容の説明に続いて、参加者にはあらかじめ準備しておいた真珠母貝の素材とサンドペーパーを配布し、素材貝を研磨して鏃（やじり）を製作する作業を行った。貝殻は非常に硬くて加工しづらい素材であるが、古代の人々はそうした貝殻を根気よく加工して、美しいやじりを製作していたことを追体験することができ、貝殻を道具の材料として巧みに利用していた貝塚人の知恵と技術を学ぶことができた。

### 【参加者の声】

- 矢じり一つ作るのに、こんなに手間ひまかかるなんて思っていませんでした。大昔の人はすごいです。
- 海とはめぐみをあたえられるものだと思います。
- 貝をけずるのがたのしかったです。かい だからきらきらでした。



## 【事業全体のまとめ】

今回、サポート事業を活用したことによって、共催のうるま市教育委員会をはじめ、30箇所以上の関係機関・関係者の協力を得て、貝塚時代やジュゴン、海に関する250件以上の資料を展示し、企画展の充実をはかることができた。企画展を通して、海とともに生きた貝塚人の豊かなくらしを紹介するとともに、ジュゴンに代表される海の生態系と人類との歴史的な関わりについて広く周知し、海洋環境の現状と豊かな海を未来に引き継いでいくことの重要性について再考を促す内容とすることができた。

若年層から中高年まで幅広い年齢層から、企画展を通して豊かな海洋環境を保護していくことの重要性を再認識したという意見が多く寄せられており、沖縄県民にとって身近な海をめぐるSDGsや環境問題といった近年の課題について、理解を深める契機となったことがうかがえる。また、貝塚時代を身近に感じてもらうための工夫として、当時の人骨から貝塚人の顔貌を復顔し、CGを活用して当時のくらしの様子を貝塚人が直接語りかける映像を製作した。映像は展示場内で復顔模型の展示と合わせて上映し、特に若年層に人気を博したほか、SNS上でも好評であった。

このほか課題点として、今回の企画展では海と人との関りをテーマとして、歴史的視点から総合的な展示を試みたが、一部の来館者からは海の生き物やジュゴンについてもっとフォーカスした展示を望む声や、パネルの文字数が多くて読みづらい等の声も聞かれた。また、CG・映像展示等を積極的に取り入れていくことも、展示の充実をはかる上では重要と思われた。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. うるま市教育委員会	資料の貸借・情報提供・関連イベントへの協力
2. 東京大学総合研究博物館	資料の貸借・情報提供
3. 伊江村教育委員会	資料の貸借・情報提供
4. 東北大学大学院理学研究科	資料の貸借・情報提供
5. 石垣市立八重山博物館	資料の貸借・情報提供
6. (一財) 沖縄県環境科学センター	資料の貸借・情報提供
7. 浦添市教育委員会	資料の貸借・情報提供
8. 沖縄県立埋蔵文化財センター	資料の貸借・情報提供
9. 沖縄国際大学	資料の貸借・情報提供
10. 沖縄市立郷土博物館	資料の貸借・情報提供
11. 宜野座村立博物館	資料の貸借・情報提供
12. 久米島博物館	資料の貸借・情報提供
13. 地底の森ミュージアム (仙台市富沢遺跡保存館)	資料の貸借・情報提供
14. 北谷町教育委員会	資料の貸借・情報提供
15. 今帰仁村歴史文化センター	資料の貸借・情報提供
16. 名護市教育委員会	資料の貸借・情報提供
17. 那覇市市民文化部	資料の貸借・情報提供
18. 那覇市歴史博物館	資料の貸借・情報提供
19. 南城市教育委員会	資料の貸借・情報提供
20. 八重瀬町教育委員会	資料の貸借・情報提供

#### 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 琉球新報	100年前の出土品里帰り 10月18日
2. 琉球新報	国内最古の着色装飾品 10月22日
3. 沖縄タイムス	貝装飾に顔料 国内最古 10月22日
4. FMレキオ	ラジオ放送での告知 11月2日
5. 沖縄タイムス	貝塚時代最古の人骨 11月9日

以上